

# Asia Indicators

発表日: 2025年6月27日(金)

オーストラリアのインフレは一段の鈍化を確認 (Asia Weekly(6/20~6/27))

～台湾の生産、輸出受注は半導体関連をけん引役に堅調な動きが続いている～

第一生命経済研究所 経済調査部

主席エコノミスト 西濱 徹 (TEL:050-5474-7495)

## ○経済指標の振り返り

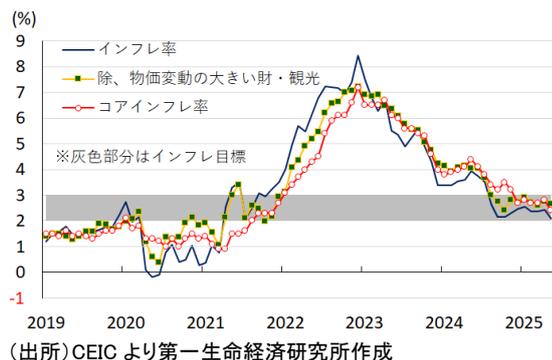
発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
6/20(金)	(台湾)5月輸出受注(前年比)	+18.5%	+18.9%	+19.8%
	(香港)5月消費者物価(前年比)	+1.9%	--	+2.0%
6/23(月)	(台湾)5月失業率(季調済)	3.34%	--	3.36%
6/24(火)	(マレーシア)5月消費者物価(前年比)	+1.2%	+1.4%	+1.4%
	(台湾)5月鉱工業生産(前年比)	+22.6%	--	+23.7%
6/25(水)	(オーストラリア)5月消費者物価(前年比)	+2.1%	+2.3%	+2.4%
	(ニュージーランド)5月輸出(億 NZドル)	76.8	--	77.0
	5月輸入(億 NZドル)	64.4	--	64.1
	(タイ)金融政策委員会(政策金利)	1.75%	1.75%	1.75%
6/26(木)	(香港)5月輸出(前年比)	+15.5%	--	+14.7%
	5月輸入(前年比)	+18.9%	--	+15.8%
6/27(金)	(フィリピン)5月輸出(前年比)	+15.1%	--	+7.6%
	5月輸入(前年比)	▲4.4%	--	▲2.5%

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

## [オーストラリア]～インフレ率、コアインフレ率、RBA が重視するインフレ指標のいずれも目標域に収まる展開～

25日に発表された5月の消費者物価は前年同月比+2.1%となり、前月(同+2.4%)から鈍化して7ヶ月ぶりの伸びとなっている。前月比も▲0.39%と前月(同+0.80%)から4ヶ月ぶりの下落に転じており、生鮮品をはじめとする食料品価格に上昇圧力がくすぶるものの、国際原油価格の調整の動きを反映してエネルギー価格に大きく下押し圧力が掛かるなど、生活必需品で物価上昇圧力が後退したことが影響している。なお、同国はトリム平均値(刈り込み平均値)ベースのインフレ率をコアインフレ率とするなか、当月は前年同月比+2.4%と前月(同+2.8%)から鈍化して2021年11月以来、3年半ぶりの伸びとなっている。さらに、RBA(中銀)が重視する物価の変動が大きい財と観光関連を除いたベースでも、当月は前年同月比+2.7%と前月(同+2.8%)から伸びが鈍化しており、前月比も+0.16%と前月(同+0.56%)から上昇ペースが鈍化している。よって、インフレ率、コアインフレ率、RBAが重視するインフレ指標のいずれも、RBAが定める目標域(2~3%)に収まる動きが確認されている。財価格は貿易財、非貿易財問わず全般的に下振れしているほか、サービス物価も下落する動きが確認されるなど、全般的にインフレ圧力が後退している様子がうかがえる。

図1 AU インフレ率の推移



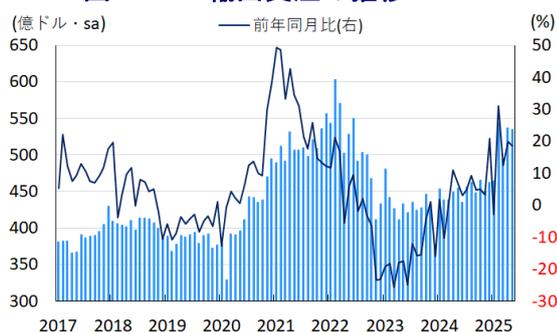
### [台湾]～主力の輸出財である半導体関連で受注は堅調な推移をみせ、生産活動を押し上げる展開が続く～

20日に発表された5月の輸出受注額は前年同月比+18.5%となり、前月（同+19.8%）から伸びが鈍化している。前月比も▲0.50%と前月（同+8.49%）から2ヶ月ぶりの減少に転じるなど一進一退の動きをみせているものの、中期的な基調は拡大傾向で推移するなど底堅い動きが続いている。国・地域別では、中国本土向けや欧州向けに下押し圧力が掛かる動きがみられるものの、トランプ関税の行方は依然として不透明ながら米国向けは引き続き堅調な推移をみせるとともに、日本向けやASEANなどアジア新興国向けの底堅さも全体を下支えしている。財別では、化学製品や輸送用機械、電気機械関連で下押し圧力が掛かる一方、主力の輸出財である半導体をはじめとする電子部品関連やIT関連、機械製品関連での堅調な動きが全体を下支えするなど、分野ごとのバラつきが鮮明になっている。

23日に発表された5月の失業率（季調済）は3.34%となり、前月（3.36%）から0.02pt改善している。失業者数は前月比▲0.1万人と前月（同▲0.2万人）から2ヶ月連続で減少しており、中期的な基調も減少傾向で推移しているほか、既卒者を中心に減少の動きが続いている。一方の雇用者数は前月比+0.7万人と前月（同▲0.3万人）から2ヶ月ぶりの拡大に転じるなど一進一退の動きをみせるとともに、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど底入れの動きが続いている。分野別では、製造業や鉱業部門の雇用環境は引き続き厳しい推移をみせているものの、サービス業で堅調な動きがみられるとともに、建設業でも底堅い動きが確認されている。また、雇用環境の底堅さを受けて、労働力人口は前月比+0.5万人と前月（同▲0.3万人）から2ヶ月ぶりの拡大に転じるなど、労働市場への参加意欲が改善しており、労働参加率も59.37%と前月（同59.34%）と0.03pt上昇する動きもみられる。

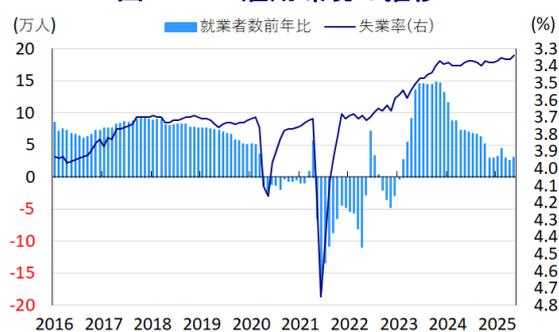
24日に発表された5月の鉱工業生産は前年同月比+22.6%となり、前月（同+23.7%）から伸びが鈍化している。ただし、前月比は+3.42%と前月（同+9.94%）から2ヶ月連続で拡大しており、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど底入れの動きを強めている。分野別では、鉱業部門の生産は力強さを欠く一方、製造業の生産は堅調な動きをみせており、なかでも主力の輸出財である半導体など電子部品関連のほか、電気機械関連やコンピュータ関連などで旺盛な動きが続いているほか、こうした動きを反映して化学製品やプラスチック製品など素材・部材関連の生産にも底堅い動きがみられる。

図2 TW 輸出受注の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

図3 TW 雇用環境の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

図4 TW 鉱工業生産の推移

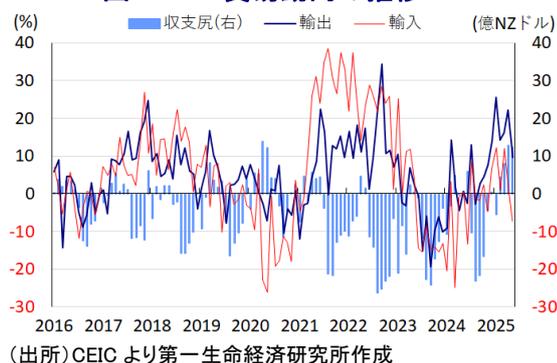


(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

### [ニュージーランド]～輸出入双方で下押し圧力が掛かる動きを確認も、貿易収支は黒字基調が続いている～

25日に発表された5月の輸出額は前年同月比+9.7%となり、前月(同+22.3%)から伸びが鈍化している。前月比も▲5.5%と前月(同+2.8%)から2ヶ月ぶりの減少に転じるなど一進一退の動きをみせるとともに、中期的な基調は減少傾向に転じるなど頭打ちの動きを強めている。財別では、原油関連の輸入が拡大しているものの、主力の輸出財である乳製品や食肉関連のほか、木製品関連、機械製品関連、果物など幅広い分野で減少する動きがみられ、輸出全体を下押ししている。国・地域別では、米国向けや欧州向けのほか、隣国オーストラリア向けに底堅い動きがみられるものの、中国向けやASEANをはじめとするアジア新興国向けなどが軒並み下振れしており、輸出全体の重石となっている。一方の輸入額は前年同月比▲7.2%となり、前月(同+1.7%)から6ヶ月ぶりに前年を下回る伸びに転じている。前月比も▲1.7%と前月(同▲1.0%)から3ヶ月連続で減少しており、中期的な基調も減少傾向に転じるなど輸出同様に頭打ちの動きを強めている。財別では、機械製品関連の輸入に堅調な動きがみられるものの、原油・石油製品関連や電気機械関連、日用品関連など幅広い分野で輸入に下押し圧力が掛かっている。結果、貿易収支は+12.35億NZドルと前月(+12.85億NZドル)からわずかに黒字幅が縮小している。

図5 NZ 貿易動向の推移



### [マレーシア]～生活必需品を中心に物価は落ち着いており、財価格を中心に物価に下押し圧力が掛かる展開～

24日に発表された5月の消費者物価は前年同月比+1.2%となり、前月(同+1.4%)から鈍化して4年3ヶ月ぶりの伸びとなっている。前月比も+0.07%と前月(同+0.15%)から上昇ペースが鈍化しており、エネルギー価格が落ち着いた推移をみせるとともに、生鮮品をはじめとする食料品価格も横這いで推移するなど、生活必需品を中心にインフレ圧力が後退している様子が見え始める。なお、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比+1.8%となり、前月(同+2.0%)から鈍化しており、年明け以降は底入れの動きを強めてきた流れに一服感が出ている。前月比も+0.15%と前月(同+0.23%)から上昇ペースが鈍化しており、サービス物価に上昇圧力がくすぶる動きがみられるものの、幅広く財価格が下振れしていることを受けてインフレ圧力が相殺されている様子が見え始める。

図6 MY インフレ率の推移

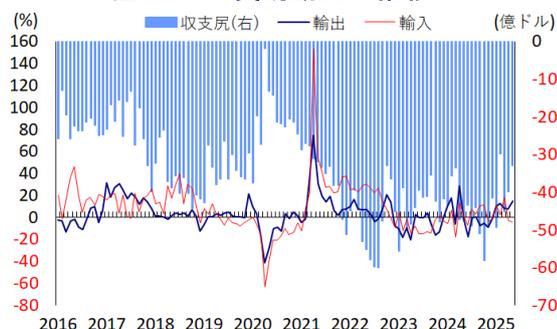


### [フィリピン]～ランプ関税の動きを受けて輸出は堅調さが続く一方、輸入は対照的に頭打ちの動きを強める～

27日に発表された5月の輸出額は前年同月比+15.1%となり、前月(同+7.6%)から伸びが加速している。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比も2ヶ月連続で拡大しており、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど底入れの動きを強めている。財別では、主力の輸出財である半導体をはじめとする電子部品関連で堅調な動きがみられるほか、鉱物資源関連や果物など幅広い分野で輸出が底打ちしている様子が見え始める。国・地域別でも、EU向けは鈍化しているものの、最大の輸出相手である中国向けが底入れの動きを強めるとともに、日本やアジア新興国向けに堅調な動きがみられるほか、米国向けも底堅い動きをみせている。一方の輸入額は前年同月比▲4.4%と2ヶ月連続で前年を下回る伸びとなるとともに、前月(同▲2.5%)からマイナス幅も拡大している。前月比も2ヶ月ぶりの減少に転じ

るとともに、中期的な基調も減少傾向で推移するなど、輸出と対照的に頭打ちの動きを強めている。輸出の先行き不透明感を受けて幅広い分野で輸入が下振れしているほか、原油をはじめとする商品市況の調整の動きも輸入の重石となっている。結果、貿易収支は▲32.90億ドルと前月（▲39.73億ドル）から赤字幅が縮小している。

図7 PH 貿易動向の推移



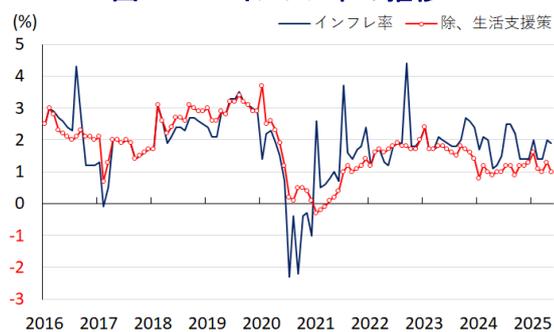
(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

### [香港]～生活必需品の物価下落に加え、幅広く財、サービス物価が下振れするなどディスインフレ基調が続く～

20日に発表された5月の消費者物価は前年同月比+1.9%となり、前月（同+2.0%）からわずかに伸びが鈍化している。前月比は▲0.28%と前月（同▲0.09%）から2ヶ月連続で下落しており、国際原油価格の調整の動きを反映してエネルギー価格が下落基調で推移しているほか、生鮮品をはじめとする食料品価格も下落するなど、生活必需品でインフレ圧力が後退している様子がうかがえる。なお、香港では2007年から断続的に公営住宅を対象とする賃料減免措置をはじめとする生活支援策が実施されており、それを除いたベースでも前年同月比+1.0%と前月（同+1.3%）から伸びが鈍化している。前月比も▲0.27%と前月（同+0.37%）から3ヶ月ぶりの下落に転じており、幅広く財価格に下押し圧力が掛かるとともに、中国本土景気の不透明感がくすぶるなかでサービス物価も下振れするなど、全般的にインフレ圧力が後退している様子がうかがえる。

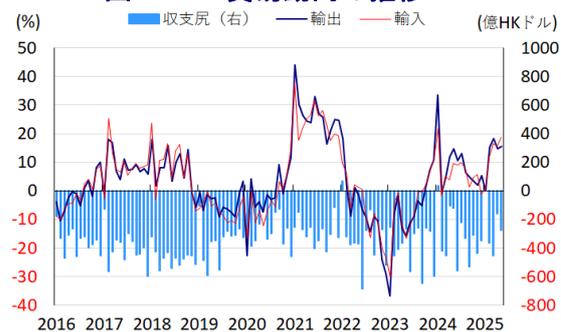
26日に発表された5月の輸出額は前年同月比+15.5%となり、前月（同+14.7%）から伸びが加速している。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比も4ヶ月連続で拡大しており、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど底入れの動きを強めている。財別では、米中摩擦の影響を受ける形で電気機械関連や機械製品関連の輸出に下押し圧力が掛かる展開が続いているものの、化学製品関連の輸出は旺盛の動きをみせるとともに、金属関連や鉱物資源関連など中国国内における過剰生産が続く分野などを中心に堅調な動きが確認されている。一方の輸入額は前年同月比+18.9%となり、前月（同+15.8%）から伸びが加速している。前月比も2ヶ月ぶりの拡大に転じるなど一進一退の動きをみせているほか、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど輸出同様に底入れの動きを強めている。分野別では、機械製品関連や化学製品関連、鉱物資源関連など幅広い分野で拡大する動きが確認されている。結果、貿易収支は▲273.65億HKドルと前月（▲160.07億HKドル）から赤字幅が拡大している。

図8 HK インフレ率の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

図9 HK 貿易動向の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

以上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任を負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。